岩手県ツキノワグマ緊急対策会議　出席者の主な発言

（岩手県猟友会　寺長根専務理事）

・　今年は夏以降クマの出没が相次ぎ、連日の出動に疲れ切っている状態。

・　クマの捕獲は危険が伴うため、講習会の実施等により捕獲従事者の育成に努めているところ。

・　暖冬になると、春のクマの出没が早まることも考えられる。

（佐々木八幡平市長）

・　今年度、人身被害が８件10人発生し、死亡事故も発生している。そのうち山に入っての事故は５人、里では５人と里での発生が多くなっている。

・　11/14に市長会と国会議員との懇談会の場で、クマ対策について要望した。

（鈴木葛巻町長）

・　今回の会議の開催で、県が重く受け止めていると感じている

・　実効性のある対策を進める必要があり、要望の早期の実現を祈る。

（ＪＡ岩手県中央会　照井常務理事）

・　デントコーンや県南・江刺地区のリンゴ団地での被害が多い。

・　休耕地の草刈りを進めていきたい。

・　なぜクマを捕獲する必要があるのか、国民に正しく伝えることが大切。

（盛岡市動物公園　辻本園長）

・　20年前と比べ、クマの警戒心が低くなっているように感じる。

・　里への出没を防ぐには、いかに協働しながら防除するかが大事。

・　県のクマ計画には「保護」についても記載がある。「保護」のスタンスを無くしてはいけない。

・　モニタリング調査を実施し、科学的なデータで根拠を担保しながら、個体数管理を進めていく必要がある。

（岩手大学　山内准教授）

・　対策には時間がかかる。長期的に人を育てることに目を向け、未来を見据えて予算を入れてほしい。

（環境省東北地方環境事務所　田村所長）

・　岩手県において、クマの被害が喫緊の課題というのがよく分かった。

・　国も緊急支援が必要との認識で、専門家緊急派遣事業を実施しているところ。

（達増知事）

・　関係機関による現状を踏まえた短期的視点での対策、地域ぐるみの被害防除の取組、また、中長期にわたり関係機関が連携して進めていくべき取組のほか、国に改善を働きかけていくべき事項などを確認することができた。

・　野生鳥獣との共生の枠組みの中で、適正な頭数管理を実行していくことが重要であると、本会議において改めて認識することができた。

・　県としても、今後、モニタリングなどにより生息数の精緻な把握に努め、市町村や猟友会等関係機関との連携強化のもとで、科学的な知見に基づいた頭数管理と被害防止対策を進めていく。

・　例年であれば、クマが冬眠を始める時期になっているが、今年は冬眠が遅れる可能性も指摘されており、まだまだ注意が必要な状況が続いている。県民の皆様には、本日の会議の関係する資料を参考にしながら、引き続き、山林に立ち入る際や夜間に外出される場合等には、十分な注意と警戒のもとで出没に備えていただくとともに、クマの食料となるものの除去や、仮にクマに遭遇した場合の対策などをよろしくお願いしたい。

・　クマが皆さんの近くにいるかもしれないという危機意識を持ち、注意・警戒を徹底されるようお願いしたい。

・　クマ対策のため人を育てて地域毎の対策をしっかり進めながら、この中山間地域の未来を作っていくということが必要。

・　野生鳥獣と共存しながらの地域のあり方、地域社会、地域経済のあり方を岩手は特に大事にしていかなければならず、そういう地域だからこそ、この優れた農業、第一次産業を展開することもでき、また自然に根差した教育や文化、そして優れたスポーツ選手も育ったりするというところもある。改めて、岩手ならではの、自然と人間の共存ということを重視する地域社会を作るということを、この岩手の地方自治の原点として大事にしながら、県としては市町村や関係機関と連携して進めていきたいと思っているので、よろしくお願いする。

本日はまことにありがとうございました。